

1 題材名 なってみる

2 題材(単元・活動について)

これまで、2014年~2015年「行為が形になっていく」(5・6年生)や、2016年「からだdeけんちく」(2年生)において、身体性を生かした授業を行ってきた。図画工作部では、文字や記号に限らず、かくこと、つくること、空間や場に関わること等の造形表現も「子どもの言語」として捉えており、子どもの行為に注目して研究を進めている。

今回は、9月20日(火)に行った「住まいになってみる」をさらに進めていく。この授業では、授業者はいつもとは違う子ども達の気持ちの高揚を感じながら進めていた。自分の身体表現をみる友人、自分と友人の身体表現を観る新しい友人…それをみる教員、そしてその教員や子どもを観る参観者など、様々な他者の存在により、子どもはいつもよりも、「観られている自分たち」に誇りのような思いをもって活動していたのだろう。改めて、「他者に観られること」について考えた授業であった。

9月の授業後は、動画を観ながら自分達の姿をふりかえった。参観者からの「土」になることへの質問を子どもにも伝えアンケートをとると、「自分の80%は土になり、20%はその自分をみる自分がいる感じ。」「土にはなりきらない。ならないなあと思いつつ、寝転んでみた。」「なってみることが『怖い事』なんて、さすが大人だなと思った。」などの感想があった。その対象へ自分を近づけつつ、もう一人の自分が、その対象に近づいていく自分を冷静に?おもしろがって?みているというのは大変興味深い。上記に挙げた、「他者に観られること」ともう一人の自分が、自分をおもしろがってみていることについては、本時の授業でも考えていきたい。

本題材は、「集落の教え100」(原広司)を参考に授業を再構成した。授業でとりあげる「住まい」は、「からだdeけんちく」でとりあげた近代建築とはちがった世界の集落の建築である。集落の建築には、「集落の教え100」(原広司)にある、「合理的解決」や「共同体」、「対立を発生させない『集落の美学』」「全体と部分」「矛盾や秩序」「共同幻想」等、てつがくの時間や今年度図画工作科が提案する「認識としてのケア」とつながる視点がある。

本時も、前回に引き続き、世界の集落の住居を取り上げ、様々な住まいを表現することによって人の「生」にせまりたい。対話が進むにつれ、子ども達からは、そこに住む人達の着るものや食事、生活習慣など、背景にせまる言葉が挙っていた。また、そこに住まう人を感じる事で、住居の内と外の関係にも着目し始めていた。集落や住まいについての情報をさらに持ち、人が住まうことや、そこで生きることについて、身体で考えていきたい。

3 学習活動計画(6時間目/全10時間)

- ・「からだdeけんちく」(1・2時間目) 建築物を身体で表現する。
- ・「住まいになってみる」(3時間目) 世界の住居を身体で表現しながら、他者とともに住まうことについて考える。
- ・「住まいになってみる」のふりかえり(4時間目) 自分たちの行為を振り返る。
- ・「なってみる」(5・6時間目) 集落についての情報を持ち、「住まう」を考える。
- ・テラコッタ粘土で表現する(7~10時間目) 自分の「住まい」をテラコッタ粘土で表す。

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

自分の身体で「住まう」ことを考え、人の「生」にせまる。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
<ul style="list-style-type: none"> ・テーマについて考える。 ・自他の違いを受けとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時に子どもたちが注目した住まいから始める。 ・本時につながる集落についての情報をもたせる。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

- ・「なってみる」というについて